HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	昭和五十年度行事報告
Citation	基督教学, 11, 32-33
Issue Date	1976-07-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46321
Type	other
File Information	11_32-33.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

注

5 πληροῦται の語はI章の中の三・一九にもある。しかしここではWe章の中の用法と異り、キリストの愛こそ神のプレーローマであるとの主張であって、完全にパウロのものである（参照IIコリ五・一四、ロマ五・八、八・三九など）。

6 テキコの動静を聖書の中に見ると、先ず彼がコロサイ書を持参してコロサイに派遣されている（コロ四・七）、ある所から（多分マケドニヤから）エペソに遣わされている（IIテモ四・一二）、多分テトス三・一二も同じ派遣をさすものと思う）。又アジアの教会の代表としてエルサレムに同行している（行伝二〇・四）。これらはテキコがエペソ及びアジアの地方と深い関係のあることを示している。尚又エウセビオスの教会史によれば、カイザリヤにいたピリポとその四人の娘予言者らがその後コロサイの近くのヒエラポリスに移っている。これはおそらくテキコの斡旋によると推定しても必ずしも的はずれではないであろう。

7 第二コリント人への手紙、ピリピ人への手紙、いずれもいくつかの文書が組合せられている。私のローマ書二文書説によれば、ローマ書もまた礼拝用のため二つの文書の結合されたものと考えられる。従って第四世紀頃に本文の確定する以前に、原初のパウロの諸手紙が色々と作為された事実を否定するわけにはいかぬと考える。

昭和五十年度行事報告

○第十四回大会

七月十四日　於・北星学園女子短期大学

理事会

総会

昭和四十九年度行事・会計・会計監査報告を承認

決議事項

一、次期大会は七月十二日(月)、北星学園大学において行なう予定とする。

二、公開講演会は高橋虔氏とシュナイダー氏を講師として招くことの可能性を打診する。

三、『基督教学』第十一号の編集委員として次の各氏を選出。浅井正三、宇野光雄、大山綱夫、近野亘、菅沼英二、滝沢武人、土屋博

研究発表会

一、キリスト論　札幌グリーン病院ケースワーカー　荒木関巧

二、アメリカにおけるヴォランタリズムについて　北星学園女子短大　大山綱夫

三、キェルケゴールに於ける「建徳」の概念　酪農学園大　渡部光男

四、大正期における北海道キリスト教史への若干の考察　日本基督教団旭川豊岡教会　福島恒雄

○公開講演会

都合により中止となる。

新入会員

和田博文　琴似工業高校
古川久　日本聖書バプテスト教会
久々津邦男　北海道大学大学院

執筆者紹介

福島恒雄　日本基督教団旭川豊岡教会牧師
木下順治　日本基督教会旭川教会牧師
荒木関巧　札幌グリーン病院ケースワーカー
渡部光男　酪農学園大学講師

昭和五十一年七月一日　印刷
昭和五十一年七月十日　発行

基督教学　第一一号　会員頒布

編集代表者　秋田稔
発行者　日本基督教学会北海道支部
北海道基督教学会
札幌市北区北九条西七丁目
北海道大学文学部宗教学研究室内
（電話・札幌七一一一二一一内線三〇二四）
（振替・小樽一三五九）

印刷所　文栄堂印刷所
札幌市中央区北三条東七丁目